

BCAO関西支部 令和2年8月度(第149回)地域勉強会 議事録

日時 2020年8月19日(水) 18:50~20:30

場所 Zoom

司会者 飯田 書記:梅田

出席者 飯田、藤村、伊藤、徳永、野原、大館、別役、徳山、寅屋敷、田中、鷲山、黒川、中島、萩原、福島、柳本、山口、衣笠、櫻本、中村、林(行)、速水、藤田、松尾、梅田(記)(計25名)

テーマ1:「新型コロナウイルス 企業対応報告」

講師:江崎グリコ株式会社:飯田 清人

概要:企業における新型コロナウイルスに対する対応事例

- ①1月下旬から、RM委員会事務局より、経営向け情報発信を開始。
- ②2月上旬から、RM委員会中心にて対策連絡会を設置し、通達等を検討、発信。
- ③在宅勤務下の出勤状況は、本社で出勤率20%。工場はほぼ100%。
- ④ウイズコロナ、アフターコロナの課題として、在宅勤務の課題を整理、新しい働き方への対応の検討を開始。
- ⑤その他具体的対応事例
 - 1)感染者・濃厚接触者が発生した場合の対応
 - ・社内/社外への発表(個人情報取り扱い)
 - ・自宅待機の期間(出勤可能となる期間)
 - 2)在宅勤務について(在宅勤務の基準・在宅勤務率)
 - 3)パンデミックBCPの有無・課題

<Q&A:>

Q:従来のパンデミックBCPは、役に立ったか?見直しは必要か?

A:被害想定を修正し、BCPを更新する必要があると考えている。一方で、コロナ対応に関わらず、大きく働き方が変わるのでは?

Q:かなり早い時期から、テレワークに取り組んできたのか?

A:働き方改革の一環で、テレワークを推進していた。

Q:在宅勤務につき、情報やセキュリティ等どうしているか?

A:ネットワーク上のセキュリティは確保できているが、在宅での会話の漏れ、のぞき見など物理的な課題はある。また通信状態については、当初は在宅勤務が一気に増えたので速度的にかなりストレスがあったが、回線を増設し、現状は対応できている。

テーマ2:「財務諸表から読み解く事業継続戦略&政府の中小企業支援制度」

講師:クロスパートナー株式会社 代表取締役 黒川 久生 氏

概要:

- ①BCAOのホームページに記載されている「新型コロナウイルス感染症に伴う支援策」について、その概要及び各支援策の内容(対象・金額・窓口・条件等)を紹介。
- ②新型コロナウイルスが及ぼす中小企業の資金繰りへの支障に関するアンケート結果紹介

介。

③事業継続力強化計画認定申請に送る「資金繰りに関する記載項目」の内容説明

④財務インパクト分析(想定したリスクに関して、財務諸表・財務指標を用いて表現する手法)の紹介

- 1)財務インパクト分析の成果物は、「リスクを想定した財務諸表」、「リスクを想定した財務指標」。
- 2)平時の事業効率と事業継続対策のバランスとり:現預金積み上げ・リスクファイナンス(保険等)を資金上どうとるのが重要。
- 3)BIA においては、売上高(売上増加率)・売上高回収サイクル・営業利益(利益率・増加率)・仕入金額・支払いサイクル等を考慮する。
- 4)BCP に関する地震保険の中には、「地震確率の高い地域では、震度 6 強以上の地震に 10 数年被災しないと保険料の方が高くなる」ほど高額になるものがあると聞いている。

<Q&A:>

Q:企業がブレイクイーブンポイントをどこに置くのかが重要ではないか?(いくらぐらいなら、保険料を支払い続けるのか?等)

A:YES. たとえば、貸しビル業では、地震保険に入らないところもある。

Q:MBA の取得時に財務インパクト分析をかなりやったが、BCM での活用には限界があると思うがどうか?

A:財務インパクト分析は、すべてに対応できるものではない。参考にする程度になる。その限界をわかった上で、クライシスマネジメント対応を考える。

Q:BCP 担当として、ボトルネック解消対策投資の投資経済性(たとえば、3~5年で回収する等)につき、経営者への説得に苦労したが、どう説得すればいいのか?

A:難しい。投資計画の中にいかに落とし込むのか?(このタイミングなら安価になる等。) BCP により課題が洗い出される。これをどう組み合わせるのが重要。また、損益では保険料が高い場合は、保険倒れになる恐れがある。

Q:中小企業は、保険をかける余裕はない。金融機関に事業の良さ・意味・使命等をわかってもらう努力をすることが事業継続計画の意味と思う。

A:YES.

以上